

## 明治期のキリスト教と社会思潮

吉副 明子

かねて博論で海老名弾正を書いたときから、いつかは植村正久を書きたいと思っていたが、気がついたらもう六〇歳になっていた。ちょうどその頃勤務していた恵泉女学園大学は何度目かのカリキュラム変更を行い、私は「チョットずらして」日本政治思想史ではなく日本のキリスト教史を持つようにいわれた。さらに、「キリスト教文化史」といわれ、この時はさながら世界史の総復習であった。幸い半年のリープがとれたので、スコットランドへ宣教資料を見に行ったりもした。二〇〇九年三月定年退職後開いた公開講座でも、明治期のプロテスタント史のトピックを拾ったり、植村正久を中心にその社会的背景を探ったりした。宣教師関係の資料からはほとんど植村の名を拾うことができず、植村研究は結局著作文献目録で地道に植村の著作に当たって行くしかなかった。だが、これが幸いして、植村の「読福沢論吉氏時事小言」に行きあたった。この評論は福沢批判であるが、維新の混乱期に、二〇才年下の植村が福沢に傾倒し、開国後の日本の将来について多くを学んだことをうかがい知ることができた。この植村

福沢の関係から、これまで曲がりなりにも続けてきた政治思想史の世界とキリスト教史の世界がつながりを持ったものとして見えるようになった。これをまとめた「若き植村正久の伝道路線」が当研究センター関係の方々の目にとまり、講座担当を打診されることになったのだと思う。

明治の思想史においてキリスト教は、「不敬事件」や「非戦論」など限定された論点でしかとりあげられて来なかったように思われるが、植村正久が何を見てこの文章を書いたか、その頃のキリスト者は何を考え何をしていいたかと辿って行くと、彼らの思想世界は当時の社会全体に拡がっている事が分かる。講座でその一端でもお話しできればと思った。もちろん丸山記念講座という講座のタイトルは大層荷が重かったが、この講座が東京女子大で開かれるということで講座担当のお誘いによる気が進んだという事情もあった。オーバードクターの一年を比較文化研究所の研究助手として週一日だったが働かせてもらったからである。日本キリスト教会上田教会の開かずの引き出しがある

て、その資料を頂きに行った。毛筆の史料に初めて触れたのはその時だった。金子馬治の名を知ったのもその時だった。

公開授業「比較思想」を、二〇一二年度は後期に回していただき、水曜四時限「明治期のキリスト教と社会思潮」の題で行った。いよいよ始めるとなると、本当に大変だった。自分の非力についてはここではチョット棚上げにするとして、最大の問題はこの講座が約二〇人の社会人（それも丸山講座の常連の方々）と、学部学生、それも一般教養のクラスとして多人数を、同時に相手として話さなければならぬということであった。学生の履修者は結局六〇人ほどに収まったが、初めは九〇人もいて心配だった。現在の大学の一般的傾向を考えると、学生たちの多くは明治時代のキリスト教についてほとんど何も知らないと覚悟せざるを得なかった。他方、社会人の方々は天皇制や非戦論といった思想史関連で何らかの関心を持っておられると想像された。この異なるグループの受講生の方々の関心を拾いながら、どうやって授業のまとまりを付けるのか、一月近くも手探りが続いた。自分の学生時代のことを顧みて、授業が学生の関心に繋がり、かつ課題と課題を解く筋道へのヒントを受講生が得てくれればなあと思い、その意味では結論的な話は自分なりの仮説で良いと考えていた。もちろんこの仮説へ向けて説得的に授業を展開する努力はしたが、より重視したのは話題の間口を拡げて学生が関わりやすくするために、まずは視覚に訴えて当時の社会を想像できるようにすることであった。そのためインターネットを駆使して画像を探し出した。島崎藤村の毛糸の

ハイソックスにウールの半ズボンというハイカラ写真を見つけ、明治学院が「仮想留学空間」で、かなり強烈な異文化体験を与える場であったこと、そこに近代文学への途が開けたことも理解できるように思えた。石井十次の岡山孤児院のことを調べているときに、小林富治郎が「ライオン歯磨 小袋入」の袋に、今でいうベルマークのような「慈善券」を付けたという発見もあった。チューブ入りの歯磨きしか知らない学生が、「歯磨き粉」と呼ばれる所以を発見するというおまけもあった！ 賛美歌の話をしたときにはCDはもちろん、聞き覚えた「禁酒」の歌までご披露におよんだほどだった。

知人から講座参加者のお一人が東女の元教授で、斎藤勇先生を慕って入学したということをお聞きした。明治のキリスト教との関連で、新渡戸稲造について詳しく話すことができなかった罪滅ぼしもあって、私は斎藤勇先生の願いで作られた女子大の校歌について、ご自身がかかれた学報を配った。他に、時代的には少し下って大正になるが、朝鮮の独立運動三・一事件の時に起こった、堤岩里教会焼討ちを批判する斎藤勇の長詩「或る殺戮事件」と、それを書いた当時植村正久が植民地支配に対する批判的な姿勢を持っていたという証言も紹介した。私が知る斎藤勇は英文学の大変な権威であられたが、キリスト者として社会の動向にキチンと向き合っておられたことを改めて確認する思いであった。東京女子大はこんな立派な先生に導かれた大学であることを、現在の学生にも知って欲しいとも思った。

私の授業のやり方は、アカデミックには見劣りがすると思う。ただ、

最後のコメントシートにあった「これからはキリスト教のことを少し真面目に考えてみたい」という感想は、「宗教」がただの観念でつかみどころがない代物ではなく、具体的な社会過程に絡みうるものであることを知ってもらえたことを示しているように思う。今後の私自身の研究もこのような視角からの手探りの延長上にあると思っている。定年を迎えて研究者として再出発をした者にこのような機会を与えて下さって感謝の思いを深くしている。

# 東京女子大学 丸山眞男記念比較思想研究センター 公開授業

## 2012 年度後期 比較思想 受講者募集のご案内

当センターでは 2005 年度から、丸山眞男並びに広く比較思想を講ずる公開講座を設置しております。2012 年度は、「比較思想」、「総合講座（比較思想）」を開講し、学部学生とともに学外の方々にも公開いたします。

なお、これまでの当センターの経験と実績をふまえ、文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に、研究拠点を形成する研究プロジェクトとして「20 世紀日本における知識人と教養—丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用—」を申請し、2012 年 4 月に採択されました。

### ○科目名：「比較思想」 **明治期のキリスト教と社会思潮**

○講師：吉馴 明子 氏（恵泉女学園大学名誉教授）

国際基督教大学卒業後、東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了。跡見学園短期大学、恵泉女学園大学教授を歴任。専門は近代日本政治思想、日本プロテスタント思想史。著書に『海老名弾正の政治思想』（東京大学出版会、1982 年）、共著に『明治学院人物列伝』（新教出版社、1998 年）など。

### ○授業概要

200 年にわたる鎖国が解かれて日本へ入ってきたプロテスタントは、まったく異なる文化的伝統をもっていた日本人によってどのように受容されたのでしょうか。その後、日本社会自体が西欧化する一方で、天皇を基軸とする国家造りが進められ、日清・日露戦争を経てアジアへの侵略を始めます。この過程で、キリスト教と在来の思潮・文化とはどのように混ざりあったのでしょうか。力によって個々人の道義心が押しつぶされていく中で、キリスト者はどのようなメッセージを発することができたのでしょうか。幕臣から転落した植村正久に例をとりながら、キリスト教思想と社会思潮の相互影響について考えていきます。

### ○教材

入門書としては、鈴木範久『日本キリスト教史物語』（教文館）がありますが、手にはいりにくいので、講師編纂になる『日本キリスト教史』を配布し、これにそって授業を行う予定です。

期 間 2012年9月26日～2013年1月9日(12/26, 1/2は授業なし・全14回)

時 間 毎週 水曜日 4時限目(14:55～16:25)

会 場 東京女子大学 (教室は当日正門付近の掲示板でご案内します)

対 象 原則として18歳以上の男女

定 員 30名

受講料 10,000円

(テキスト代等は含みません。なお、一度納入された費用は返却いたしませんので、ご了承下さい。)

【申込方法】 郵送・FAX・Eメールのいずれにてもお申込みいただけます。郵送・FAXの場合は同封の申込用紙にて、Eメールの場合は、お名前、ご住所、お電話番号、ご年齢、性別、受講動機を明記の上、お申込みください。

【締め切り】 8月22日 水曜日(必着)

【結果通知】 9月上旬に結果通知はがきをお送りいたします。申し込み多数の場合は、抽選の上受講者を決定いたしますので、あらかじめご了承ください。

【受講手続】 受講を認められた方は、結果通知ハガキ所載の口座に受講料をお振込みの上、結果通知ハガキを授業初日に会場にお持ち下さい。

請求・送付先： 〒167-8585 東京都杉並区善福寺 2-6-1  
東京女子大学 丸山真男記念比較思想研究センター事務局  
TEL: 03-5382-6817 (内線 2648) FAX: 03-5382-6120  
月～金・10時～17時(12:00～13:00を除く)  
メールアドレス: marubun@lab.twcu.ac.jp

【ホームページ】 <http://office.twcu.ac.jp/facilities/maruyama/index.html>

※授業の単位は認定されませんので、あらかじめご承知おき下さい。